

# 令和元年度 アレルギー診療実態調査結果

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

# 目次

1 調査概要	P 3
2 調査項目	P 4
3 調査結果	P 5
(1) 各大学病院のアレルギー対策の状況	P 5
(2) 各医療圏のアレルギー対策の状況	P 6
(3) エピペンの使用状況	P 12
4 その他北海道におけるアレルギー疾患対策の状況	P 15
(1) 内服薬を処方している医療機関数	P 15
(2) 外用薬を処方している医療機関数	P 16
(3) アレルギー疾患対応に関する道内医療機関との連携、ホームページ等による情報提供の可否	P 17
5 医療機関の声	P 18
(参考)アレルギー診療実態調査アンケート用紙	P 25

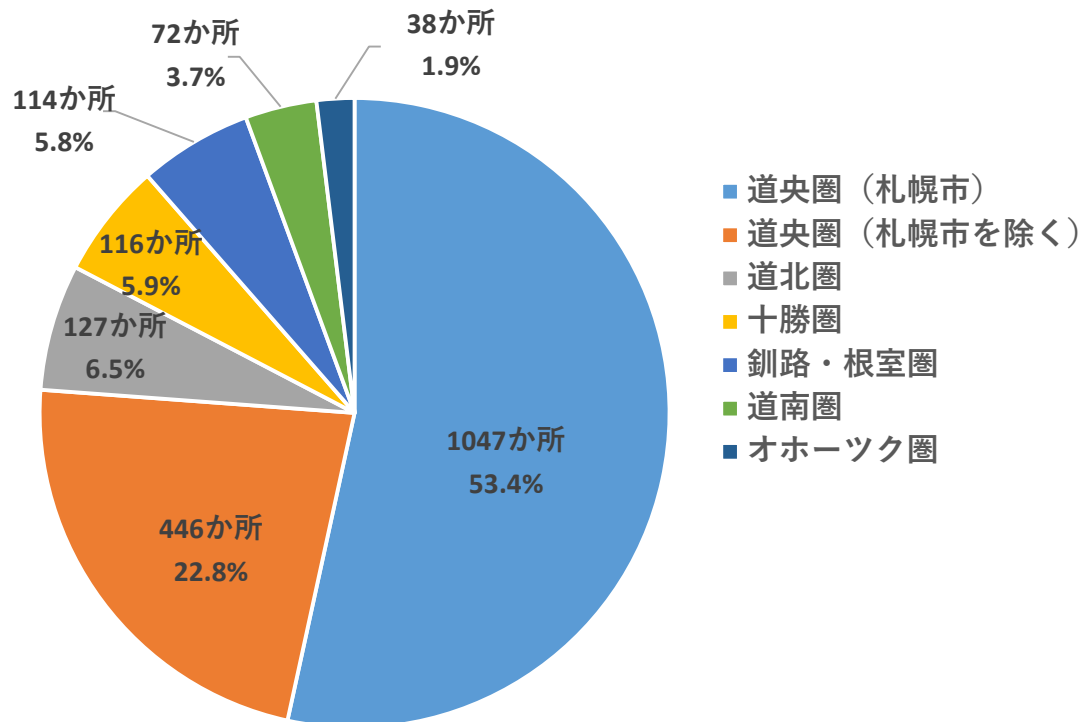
# 1 調査概要

- (1) 調査目的: 北海道におけるアレルギー疾患対策の実態把握
- (2) 調査対象: 医療法に基づく19の標榜科いずれかを有する道内の医療機関(対象数: 6, 960)

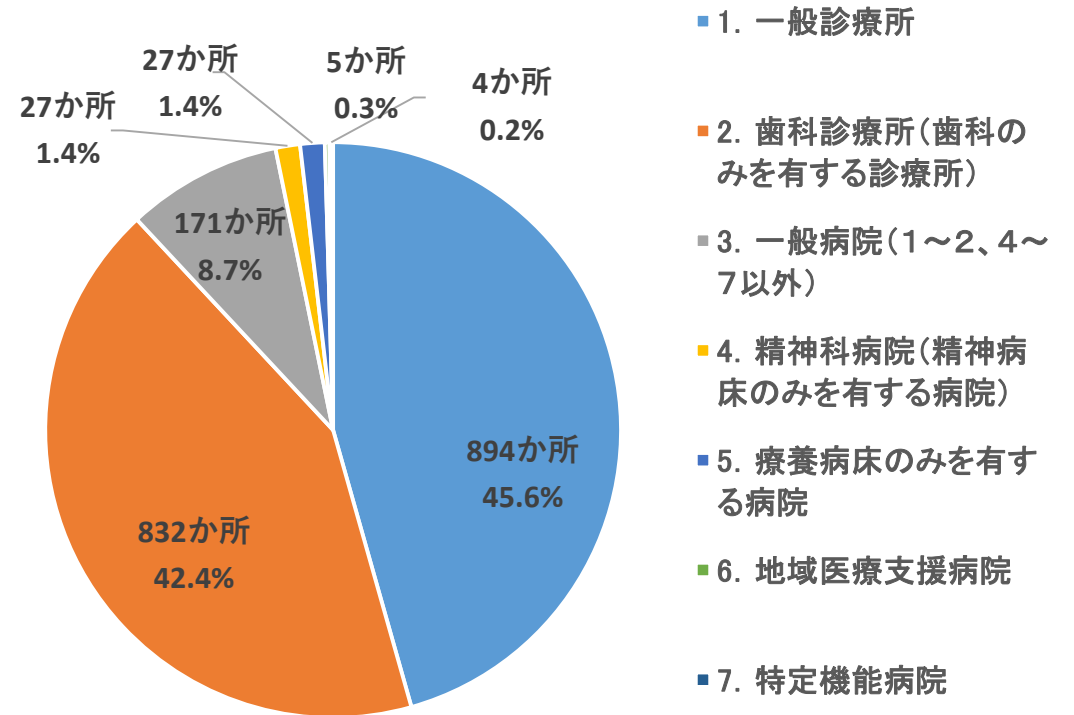
※19の標榜科とは、内科、外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科、歯科、その他を指す。

- (3) 調査時期: 令和2年1月31日
- (4) 回答率: 28.1%(回答数: 1,960) ※医療機関の圏域別、種別の回答数の内訳は以下のとおり

医療機関圏域別の回答数の内訳



医療機関種別の回答数の内訳



## 2 調査項目

令和元年度開催の北海道アレルギー疾患医療連絡協議会における委員の意見を踏まえた上で設定した調査項目は、以下のとおりである。

- (1) 各大学病院のアレルギー対策の状況
- (2) 各医療圏のアレルギー対策の状況
- (3) エピペンの使用状況

### 3 調査結果

#### (1) 各大学病院のアレルギー対策の状況

- ・「アレルギー専門医」とは、(社団)日本アレルギー学会認定の医師を指し、内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科など基本領域の学会の専門医の認定を受けていることなどが要件となっている。

病院名	標榜科別の常勤のアレルギー専門医の人数						計
	内科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	その他 (リウマチ科)	
北海道大学病院	3	2	1	2	1	0	9
札幌医科大学病院	2	1	0	2	0	1	6
旭川医科大学病院	0	0	0	2	0	0	2
計	5	3	1	6	1	1	17

#### 【調査結果から見たこと】

北海道大学病院は9人、札幌医科大学病院は6人、旭川医科大学病院は2人のアレルギー専門医がおり、特に北海道大学病院については、厚労省がアレルギー疾患医療拠点病院として求める全ての標榜科（内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科）において、常勤のアレルギー専門医がいる。

## (2) 各医療圏のアレルギー対策の状況

### ① アレルギー専門医の人数

■各医療機関のアレルギー専門医の人数を標榜科ごとに計上

三次医療圏	二次医療圏	内科	外科	精神科	アレルギー科	リウマチ科	小児科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	放射線科	病理診断科	臨床検査科	救急科	麻酔科	歯科	その他	二次医療圏		三次医療圏		
																					人数計	比率	人数計	比率	
道南	南渡島	3				1	1					1									6	5.1%	6	5.1%	
	南檜山																				0	0.0%			
	北渡島檜山																				0	0.0%			
道央	札幌	19			15	3	15	6		1	3	13						1	9	1	86	73.5%	94	80.3%	
	後志																		1		1	0.9%			
	南空知	2																			2	1.7%			
	中空知																				0	0.0%			
	北空知																				0	0.0%			
	西胆振	3																			3	2.6%			
	東胆振								1											1	2	1.7%			
日高																				0	0.0%				
道北	上川中部											2									2	1.7%	2	1.7%	
	上川北部																				0	0.0%			
	富良野																				0	0.0%			
	留萌																				0	0.0%			
	宗谷																				0	0.0%			
オホーツク	北網																				0	0.0%	1	0.9%	
	遠紋																		1		1	0.9%			
十勝	十勝	3					1					3									8	6.8%	8	6.8%	
釧路・根室	釧路				1			2				1									5	4.3%	6	5.1%	
	根室	1																			1	0.9%			
計		31 【1位】	0	0	16	4	17 【3位】	9	0	1	3	20 【2位】	0	0	0	0	0	0	1	13	2	117	100.0%	117	100.0%
(うち歯科診療所)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	11			9.4%	

## ② アレルギー専門医がいる医療機関

■ 各医療機関で複数の標榜科にアレルギー専門医がいれば、標榜科ごとに計上

三次医療圏	二次医療圏	内科	外科	精神科	アレルギー科	リウマチ科	小児科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	放射線科	病理診断科	臨床検査科	救急科	麻酔科	歯科	その他	二次医療圏				三次医療圏				
																					医療機関数計	(実数)	比率	(実数)	医療機関数計	(実数)	比率	(実数)	
道南	南渡島	2				1	1					1										5	(5)	5.2%	(13.2%)	5	(5)	5.2%	(13.2%)
	南檜山																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
	北渡島檜山																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
道央	札幌	15			14	3	12	6		1	2	11							1	4	1	70	(14)	72.9%	(36.9%)	75	(19)	78.1%	(50.0%)
	後志																			1		1	(1)	1.0%	(2.6%)				
	南空知	1																			1	(1)	1.0%	(2.6%)					
	中空知																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
	北空知																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
	西胆振	1																				1	(1)	1.0%	(2.6%)				
	東胆振							1													1	2	(2)	2.1%	(5.3%)				
日高																					0	(0)	0.0%	(0.0%)					
道北	上川中部											1										1	(1)	1.0%	(2.6%)	1	(1)	1.0%	(2.6%)
	上川北部																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
	富良野																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
	留萌																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
	宗谷																					0	(0)	0.0%	(0.0%)				
オホーツク	北網																					0	(0)	0.0%	(0.0%)	1	(1)	1.0%	(2.6%)
	遠紋																			1	1	(1)	1.0%	(2.6%)					
十勝	十勝	3					1					3									1	8	(7)	8.3%	(18.5%)	8	(7)	8.3%	(18.5%)
釧路・根室	釧路				1			2				1									1	5	(4)	5.2%	(10.5%)	6	(5)	6.3%	(13.1%)
	根室	1																				1	(1)	1.0%	(2.6%)				
計		23	0	0	15	4	14	9	0	1	2	17	0	0	0	0	0	0	1	8	2	96	(38)	100.0%	(100.0%)	96	(38)	100.0%	(100.0%)
(うち歯科診療所)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7		7.2%					

### ③ アレルギー検査を行っている医療機関

- アレルギー専門医及びその他医療従事者による検査を実施している医療機関
- 各医療機関で複数の疾患の検査を行っていれば、疾患ごとに計上

三次医療圏	二次医療圏	小児ぜん息	成人のぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	口腔アレルギー	アレルギー性結膜炎	食物アレルギー	重症薬疹	接触性皮膚炎	蕁麻疹	ラテックスアレルギー	アナフィラキシーショック	職業性アレルギー	二次医療圏				三次医療圏			
																医療機関数計	(実数)	比率	(実数)	医療機関数計	(実数)	比率	(実数)
道南	南渡島	16	27	16	33	30	7	16	30	4	15	24	4	13	4	239	(37)	6.0%	(5.4%)	275	(43)	6.9%	(6.2%)
	南檜山	1	2	1	2	0	1	0	2	1	2	2	1	1	0	16	(3)	0.4%	(0.4%)				
	北渡島檜山	1	3	2	2	3	0	1	3	0	1	1	2	1	0	20	(3)	0.5%	(0.4%)				
道央	札幌	83	186	151	266	283	159	124	236	53	117	202	84	86	45	2,075	(363)	52.1%	(52.6%)	2,748	(484)	69.1%	(70.1%)
	後志	4	12	6	16	15	8	7	13	3	8	9	3	5	3	112	(25)	2.8%	(3.6%)				
	南空知	2	16	6	13	13	8	8	11	4	5	10	4	6	2	108	(19)	2.7%	(2.8%)				
	中空知	2	4	2	7	8	4	5	4	1	2	4	1	2	1	47	(9)	1.2%	(1.3%)				
	北空知	1	3	3	4	4	2	3	4	0	1	4	0	2	0	31	(5)	0.8%	(0.7%)				
	西胆振	11	20	12	20	18	11	12	18	6	12	16	3	10	3	172	(29)	4.3%	(4.2%)				
	東胆振	10	13	14	15	15	5	8	16	5	9	14	6	8	2	140	(23)	3.5%	(3.3%)				
	日高	4	8	4	8	9	2	3	9	0	3	8	0	5	0	63	(11)	1.6%	(1.6%)				
道北	上川中部	5	10	7	13	18	9	6	15	4	5	9	4	2	4	111	(26)	2.8%	(3.8%)	317	(57)	8.0%	(8.3%)
	上川北部	3	6	5	6	7	1	2	6	0	1	3	0	3	0	43	(4)	1.1%	(0.6%)				
	富良野	1	3	1	4	5	2	1	2	1	1	1	0	1	1	24	(5)	0.6%	(0.7%)				
	留萌	6	7	7	7	6	2	5	7	1	5	7	0	3	1	64	(11)	1.6%	(1.6%)				
	宗谷	4	7	5	9	9	3	5	9	4	4	7	3	4	2	75	(11)	1.9%	(1.6%)				
オホーツク	北網	2	3	2	2	4	1	2	1	0	2	4	1	3	1	28	(4)	0.7%	(0.6%)	86	(14)	2.2%	(2.1%)
	遠紋	3	5	6	7	5	4	5	6	0	4	7	2	3	1	58	(10)	1.5%	(1.5%)				
十勝	十勝	17	29	24	35	36	24	18	32	7	19	31	13	16	12	313	(44)	7.9%	(6.4%)	313	(44)	7.9%	(6.4%)
釧路・根室	釧路	9	20	7	15	16	14	10	20	6	11	12	8	7	5	160	(37)	4.0%	(5.4%)	240	(47)	6.0%	(6.9%)
	根室	5	6	7	8	6	4	9	9	3	6	8	3	4	2	80	(10)	2.0%	(1.5%)				
計		190	390	288	492	510	271	250	453	103	233	383	142	185	89	3,979	(689)	100.0%	(100.0%)	3,979	(689)	100.0%	(100.0%)
(うち歯科診療所)		0	0	1	1	1	31	1	2	0	4	1	8	4	0	54				1.3%			



## ④ アレルギー治療を行っている医療機関

- ・アレルギー専門医及びその他医療従事者による治療を行っている医療機関
- ・各医療機関で複数の疾患の治療を行っていれば、疾患ごとに計上

三次医療圏	二次医療圏	小児ぜん息	成人のぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	口腔アレルギー	アレルギー性結膜炎	食物アレルギー	重症薬疹	接触性皮膚炎	蕁麻疹	ラテックスアレルギー	アナフィラキシーショック	職業性アレルギー	二次医療圏				三次医療圏			
																医療機関数計	(実数)	比率	(実数)	医療機関数計	(実数)	比率	(実数)
道南	南渡島	18	34	27	40	32	12	28	23	4	25	38	3	14	5	303	(45)	5.8%	(5.4%)	349	(51)	6.7%	(6.1%)
	南檜山	1	2	1	2	0	0	1	1	1	2	2	0	1	0	14	(2)	0.3%	(0.2%)				
	北渡島檜山	2	4	3	4	3	1	3	3	0	3	4	1	1	0	32	(4)	0.6%	(0.5%)				
道央	札幌	109	279	208	369	342	177	242	181	55	199	305	71	103	45	2,685	(443)	51.5%	(53.3%)	3,572	(594)	68.5%	(71.3%)
	後志	9	19	8	20	17	8	15	11	3	18	19	3	8	4	162	(26)	3.1%	(3.1%)				
	南空知	3	19	9	17	13	10	12	10	4	9	15	3	7	2	133	(21)	2.6%	(2.5%)				
	中空知	3	7	3	10	9	4	7	4	1	5	7	1	2	0	63	(11)	1.2%	(1.3%)				
	北空知	2	5	3	5	5	3	3	3	0	5	6	0	3	1	44	(7)	0.8%	(0.8%)				
	西胆振	11	29	20	29	21	14	22	13	7	20	27	3	8	3	227	(42)	4.4%	(5.0%)				
	東胆振	12	20	15	26	16	6	18	11	6	17	25	5	11	4	192	(30)	3.7%	(3.6%)				
日高	4	10	4	8	8	1	6	4	0	5	9	0	7	0	66	(14)	1.3%	(1.7%)					
道北	上川中部	10	22	11	22	22	13	20	13	4	14	20	6	11	6	194	(32)	3.7%	(3.8%)	444	(65)	8.5%	(7.7%)
	上川北部	5	9	7	10	8	1	5	4	0	8	8	1	2	1	69	(7)	1.3%	(0.8%)				
	富良野	1	4	1	5	5	2	2	1	1	1	1	0	1	1	26	(5)	0.5%	(0.6%)				
	留萌	5	8	7	7	6	3	6	6	3	6	8	0	3	1	69	(11)	1.3%	(1.3%)				
	宗谷	6	9	6	10	10	2	8	6	3	7	9	3	4	3	86	(10)	1.6%	(1.2%)				
オホーツク	北網	2	4	3	4	4	2	3	2	0	3	5	1	3	1	37	(5)	0.7%	(0.6%)	128	(17)	2.5%	(2.0%)
	遠紋	5	9	8	10	9	7	9	6	0	8	10	3	5	2	91	(12)	1.7%	(1.4%)				
十勝	十勝	25	42	36	47	40	26	40	29	11	31	48	15	25	14	429	(52)	8.2%	(6.4%)	429	(52)	8.2%	(6.4%)
釧路・根室	釧路	12	27	15	29	18	12	20	16	5	17	22	6	8	5	212	(43)	4.1%	(5.2%)	292	(54)	5.6%	(6.5%)
	根室	5	7	7	9	5	3	10	6	2	8	10	3	4	1	80	(11)	1.5%	(1.3%)				
計		250	569	402	683	593	307	480	353	110	411	598	128	231	99	5,214	(833)	100.0%	(100.0%)	5,214	(833)	100.0%	(100.0%)
(うち歯科診療所)		0	0	0	0	0	37	0	1	0	4	0	1	4	0	47				0.9%			

## ⑤ 発作時の対応を行っている医療機関

- アレルギー専門医及びその他医療従事者による対応を行っている医療機関
- 各医療機関で複数の疾患の対応を行っていれば、疾患ごとに計上

三次医療圏	二次医療圏	小児ぜん息	成人のぜん息	口腔アレルギー	食物アレルギー	重症薬疹	蕁麻疹	ラテックスアレルギー	アナフィラキシーショック	職業性アレルギー	二次医療圏				三次医療圏			
											医療機関数計	(実数)	比率	(実数)	医療機関数計	(実数)	比率	(実数)
道南	南渡島	15	30	7	17	6	29	6	11	5	126	(39)	5.4%	(6.5%)	148	(45)	6.3%	(7.5%)
	南檜山	2	2	1	1	0	2	0	2	0	10	(3)	0.4%	(0.5%)				
	北渡島檜山	2	3	1	1	1	1	1	1	1	12	(3)	0.5%	(0.5%)				
道央	札幌	111	253	120	122	59	220	84	185	37	1,191	(275)	50.9%	(46.2%)	1,607	(395)	68.7%	(66.5%)
	後志	7	17	9	8	5	12	2	15	3	78	(26)	3.3%	(4.4%)				
	南空知	3	17	7	8	3	13	4	13	1	69	(20)	2.9%	(3.4%)				
	中空知	3	4	1	2	0	3	1	3	0	17	(6)	0.7%	(1.0%)				
	北空知	2	4	2	4	0	4	1	5	0	22	(7)	0.9%	(1.2%)				
	西胆振	8	26	9	12	6	22	5	13	1	102	(31)	4.4%	(5.2%)				
	東胆振	12	15	8	9	6	17	6	15	6	94	(23)	4.0%	(3.9%)				
日高	3	8	1	5	2	7	1	6	1	34	(7)	1.5%	(1.2%)					
道北	上川中部	8	20	6	10	6	17	6	10	5	88	(28)	3.8%	(4.7%)	203	(56)	8.7%	(9.4%)
	上川北部	2	7	1	1	0	4	1	3	1	20	(5)	0.9%	(0.8%)				
	富良野	1	3	1	1	1	1	0	1	1	10	(4)	0.4%	(0.7%)				
	留萌	6	8	2	6	3	8	1	3	1	38	(10)	1.6%	(1.7%)				
	宗谷	8	9	2	6	3	8	2	6	3	47	(9)	2.0%	(1.5%)				
オホーツク	北網	2	4	1	3	1	4	1	4	1	21	(6)	0.9%	(1.0%)	49	(14)	2.1%	(2.3%)
	遠紋	6	7	1	3	0	5	1	4	1	28	(8)	1.2%	(1.3%)				
十勝	十勝	24	38	18	24	10	32	14	32	13	205	(42)	8.8%	(7.0%)	205	(42)	8.8%	(7.0%)
釧路・根室	釧路	7	22	8	10	5	16	7	16	4	95	(36)	4.1%	(6.0%)	127	(44)	5.4%	(7.3%)
	根室	6	5	2	4	2	5	3	4	1	32	(8)	1.4%	(1.3%)				
計		238	502 【1位】	208	257	119	430 【2位】	147	352 【3位】	86	2,339	(596)	100.0%	(100.0%)	2,339	(596)	100.0%	(100.0%)
(うち歯科診療所)		13	13	34	4	7	3	24	45	2	145				6.2%			

## 【調査結果から見えたこと】

### ○ アレルギー専門医の人数及び医療機関について

- ・二次医療圏で見ると、全道の70%以上が札幌圏に集中している。
- ・一方、三次医療圏で見ると、道北圏、オホーツク圏が1%前後と少ない。
- ・また、厚労省が拠点病院に求める標榜科別に見ると、  
内科、耳鼻咽喉科、小児科は、全道で10人(又は10か所)以上と多いが、  
皮膚科、眼科は、全道で10人(又は10か所)未満と少ない。

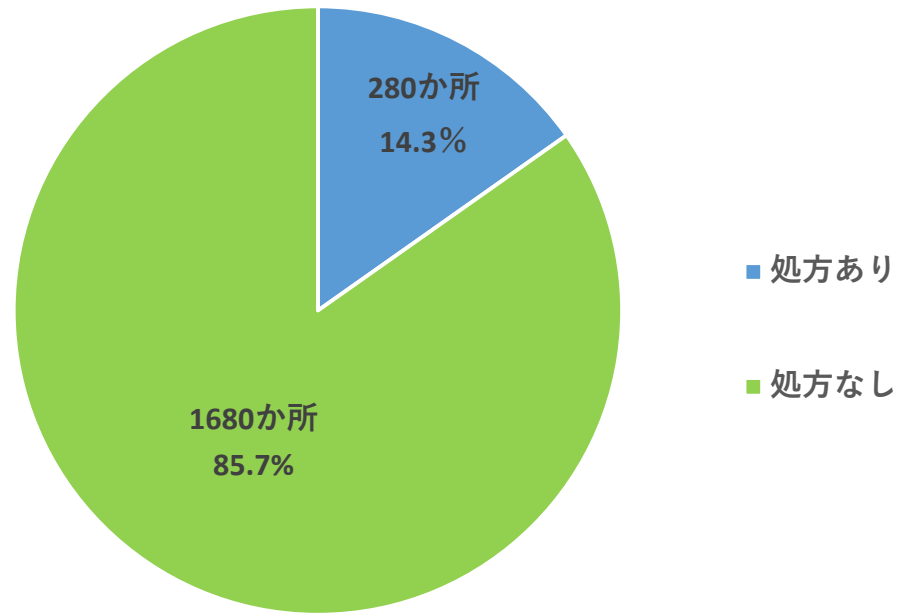
### ○ アレルギー専門医及びその他医療従事者によるアレルギー検査、治療、発作時の対応が可能な医療機関の状況について

- ・二次医療圏で見ると、全道の50%以上が札幌圏に集中している。
- ・一方、三次医療圏で見ると、オホーツク圏が2%前後と少ない。
- ・また、疾病別に見ると、  
検査は、①花粉症、②アレルギー性鼻炎、③食物アレルギーの順、  
治療は、①アレルギー性鼻炎、②蕁麻疹、③花粉症の順、  
発作時の対応は、①成人のぜん息、②蕁麻疹、③アナフィラキシーショックの順  
に多い。

### (3) エピペンの使用状況

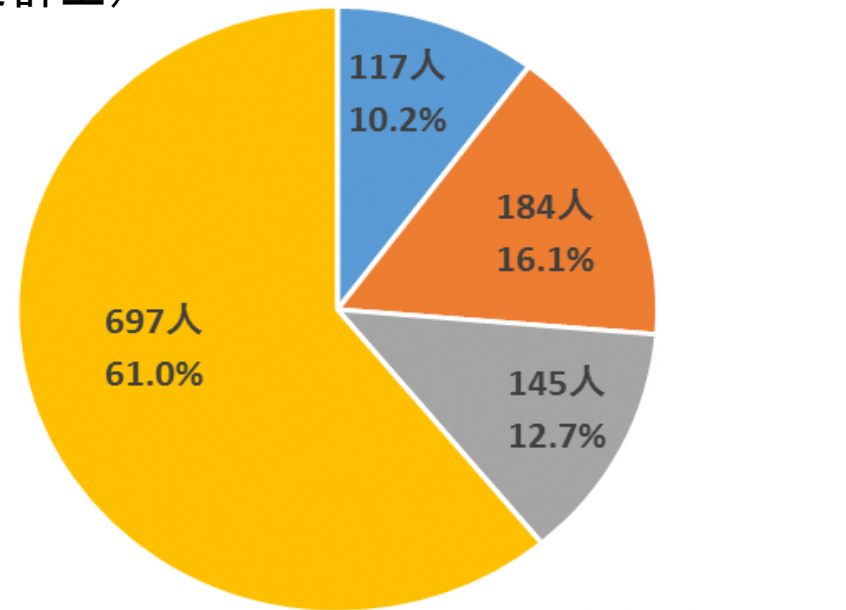
・「エピペン」とは、急激に起きるアレルギー反応のアナフィラキシーショックに対し、一時救命救急処置として行うアドレナリン自己注射のことを指す。

#### ① 過去1年間でエピペンを処方した医療機関数



#### ② 過去1年間の対象者別エピペンの処方人数

・各医療機関で複数の患者に処方していれば、その人数を対象ごとに計上(ただし、同一患者に複数回処方した場合は1人として計上)

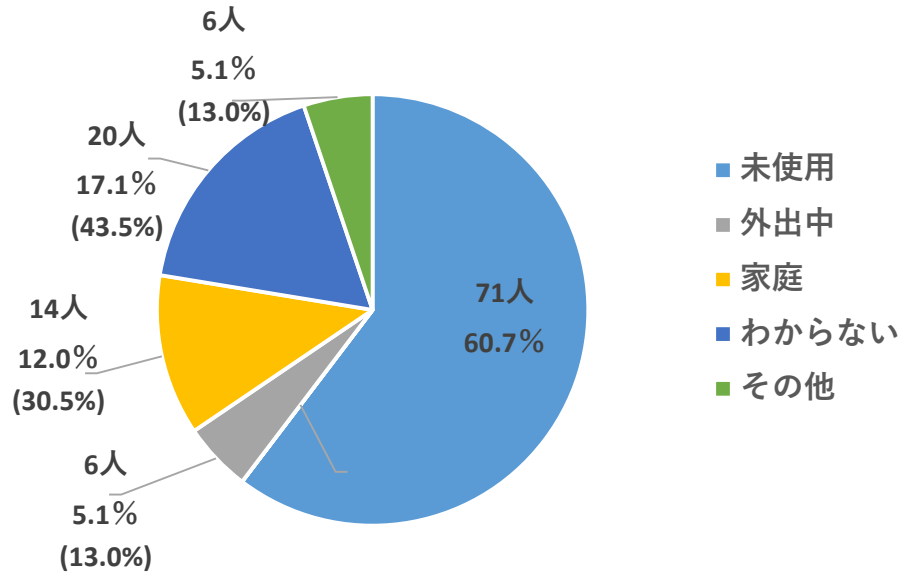


■ 未就学児 ■ 小学生 ■ 中学生・高校生 ■ 18歳以上

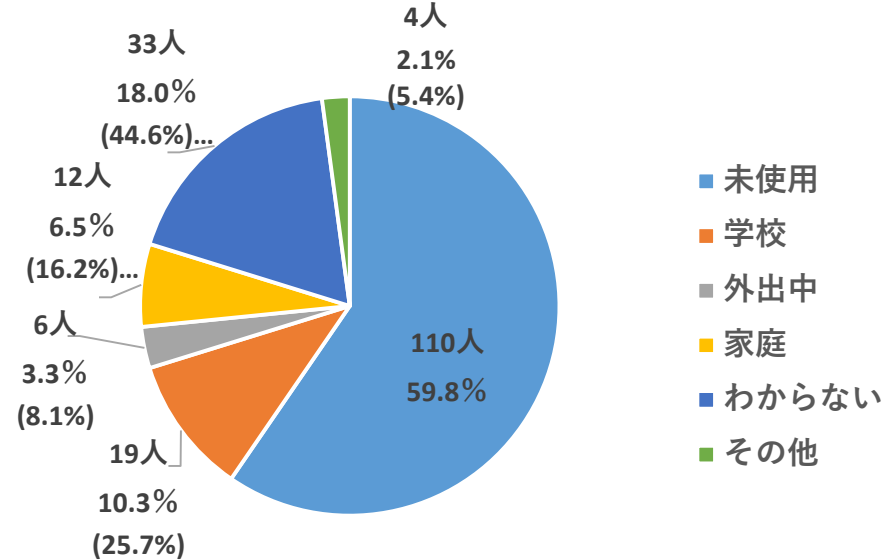
### ③ 対象者別エピペンの使用場所

- ・②で処方を受けた者の使用場所(グラフの( )内の%は「未使用」を除いた比率)
- ・同一患者が同一場所で複数回使用した場合は、1人として計上

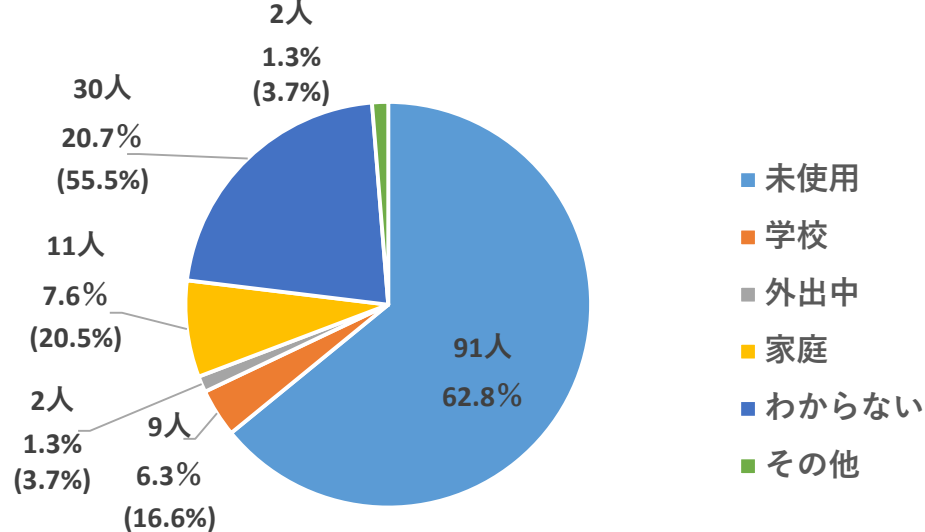
未就学児のエピペンの使用場所



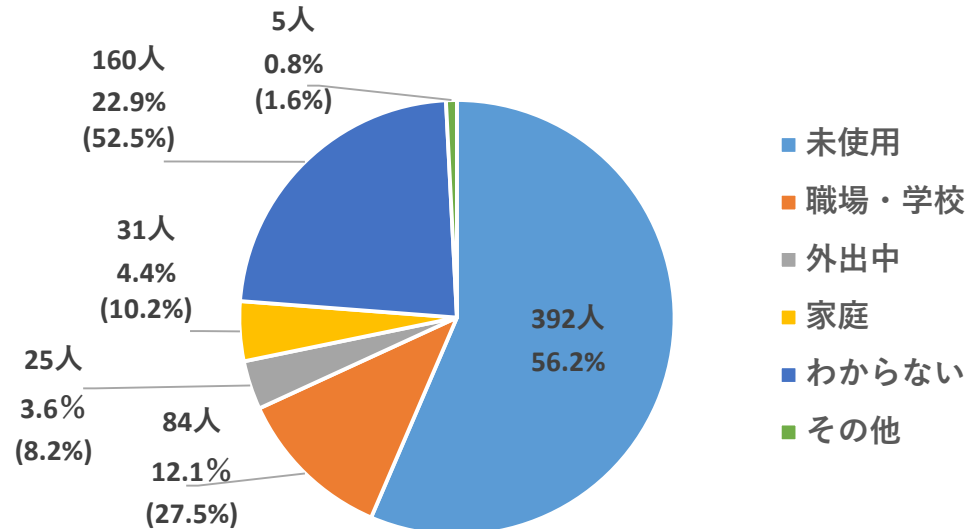
小学生のエピペンの使用場所



中学生・高校生のエピペンの使用場所



18歳以上のエピペンの使用場所



## 【調査結果から見たこと】

- 本調査に回答した医療機関1,960か所のうち、過去1年間でエピペンを処方した医療機関は280か所で、約15%となっている。
- エピペンの処方を対象者別に見ると、18歳以上が約60%となっている。
- 処方を受けた患者のエピペンの使用については、いずれの対象者も約60%が「未使用」となっている。

また、「未使用」を除いた患者の使用場所の比率を見ると、未就学児は「家庭で使用」が30.5%、小学生は「学校で使用」が25.7%、中学生・高校生は「家庭で使用」が20.5%、18歳以上は「職場・学校で使用」が27.5%と多いが、いずれの対象者も、約40～50%が「わからない」となっている。

# 4 その他北海道におけるアレルギー疾患対策の状況

## (1) 内服薬を処方している医療機関

・各医療機関で複数の疾患の処方を行っていれば、疾患ごとに計上

	小児ぜん息	成人のぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	口腔アレルギー	アレルギー性結膜炎	食物アレルギー	重症薬疹	接触性皮膚炎	蕁麻疹	ラテックスアレルギー	職業性アレルギー	計
南渡島	18	36	28	44	38	11	25	23	5	22	41	7	5	303
南檜山	1	2	2	2	1	1	0	1	0	2	2	1	0	15
北渡島檜山	2	4	4	4	3	1	1	3	1	1	2	2	1	29
札幌	131	340	231	448	395	161	193	201	73	204	368	82	52	2,879
後志	8	20	7	19	15	9	10	9	3	11	22	4	3	140
南空知	3	20	8	20	15	7	8	9	4	9	15	4	3	125
中空知	3	8	2	11	9	4	2	4	0	4	5	1	0	53
北空知	2	5	3	6	5	2	1	4	0	5	6	0	1	40
西胆振	12	31	17	35	22	11	16	12	7	17	29	4	3	216
東胆振	12	21	17	28	21	7	12	13	7	17	25	5	6	191
日高	4	14	7	13	12	1	7	5	0	9	13	0	0	85
上川中部	10	22	13	24	23	12	14	14	5	13	20	5	6	181
上川北部	4	9	5	10	9	0	4	4	1	5	7	1	1	60
富良野	2	6	2	6	6	2	3	1	1	2	2	0	1	34
留萌	5	8	7	7	7	3	3	6	3	7	8	0	1	65
宗谷	7	10	8	11	11	3	8	8	3	7	10	3	3	92
北網	2	6	4	5	5	1	2	2	0	3	6	1	0	37
遠紋	5	9	7	10	8	5	5	6	0	7	10	3	2	77
十勝	32	47	37	54	42	20	26	29	12	28	50	13	15	405
釧路	12	29	16	36	21	10	18	16	7	16	29	7	6	223
根室	5	7	8	9	7	2	6	7	2	6	10	3	1	73
計	280	654	433	802	675	273	364	377	134	395	680	146	110	5,323

## (2)外用薬を処方している医療機関

・各医療機関で複数の疾患の処方を行っていれば、疾患ごとに計上

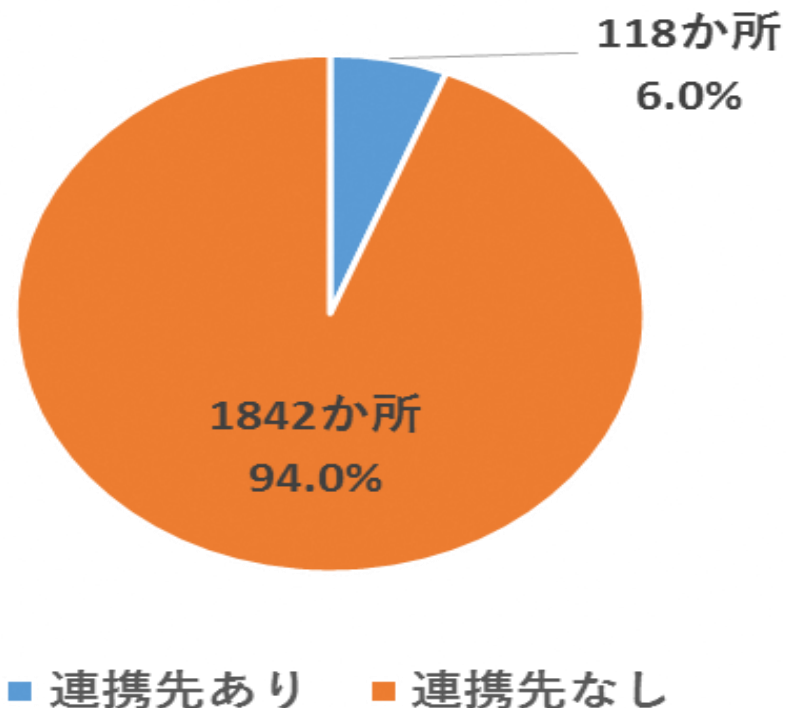
	小児ぜん息	成人のぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	口腔アレルギー	アレルギー性結膜炎	食物アレルギー	重症薬疹	接触性皮膚炎	蕁麻疹	ラテックスアレルギー	アナフィラキシー	職業性アレルギー	計
南渡島	19	34	27	42	34	9	33	15	5	25	36	8	9	5	301
南檜山	1	2	2	2	0	0	0	1	0	2	2	0	1	0	13
北渡島檜山	2	3	3	3	3	0	3	3	1	2	2	2	1	1	29
札幌	124	339	248	391	350	110	289	133	66	247	309	75	93	51	2,825
後志	10	22	14	21	17	7	19	8	3	19	19	3	8	4	174
南空知	3	19	13	19	14	7	15	5	3	11	13	3	5	3	133
中空知	3	6	3	10	10	2	7	2	0	6	5	1	2	0	57
北空知	2	4	3	4	4	0	3	1	0	6	2	0	0	1	30
西胆振	12	32	18	30	20	8	22	11	6	19	26	4	8	2	218
東胆振	12	21	16	23	18	5	18	10	7	17	18	4	10	5	184
日高	4	13	7	11	11	0	11	3	0	9	12	0	5	0	86
上川中部	9	19	12	22	17	6	21	10	2	14	17	5	6	5	165
上川北部	4	9	6	10	8	1	7	2	1	6	8	1	3	1	67
富良野	2	6	2	6	6	1	3	1	1	2	2	0	1	1	34
留萌	5	8	7	7	4	3	7	4	2	7	6	0	2	1	63
宗谷	7	10	8	11	11	2	10	8	3	7	8	3	4	3	95
北網	2	5	3	5	4	1	3	2	0	3	4	1	2	1	36
遠紋	5	8	8	9	8	2	9	2	1	8	9	3	2	2	76
十勝	26	44	39	49	37	13	42	22	11	35	46	12	17	12	405
釧路	11	31	19	36	19	10	27	12	7	18	23	6	4	6	229
根室	5	7	7	9	7	3	11	6	2	8	9	3	2	1	80
計	268	642	465	720	602	190	560	261	121	471	576	134	185	105	5,300



### (3) アレルギー疾患対応に関する道内医療機関との連携、ホームページ等による情報提供の可否

圏域別医療機関の連携数										
三次医療圏	二次医療圏	1～5	6～10	11～20	21～30	31以上	二次医療圏		三次医療圏	
							連携数計	比率	連携数計	比率
道南	南渡島	2	2	0	0	0	4	3.4%	5	4.2%
	南檜山	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	北渡島檜山	1	0	0	0	0	1	0.8%		
道央	札幌	55	4	4	2	3	68	57.6%	84	71.2%
	後志	2	1	0	0	0	3	2.5%		
	南空知	1	0	0	0	0	1	0.8%		
	中空知	1	1	0	0	0	2	1.7%		
	北空知	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	西胆振	2	2	0	0	0	4	3.4%		
	東胆振	3	1	0	0	0	4	3.4%		
日高	2	0	0	0	0	2	1.7%			
道北	上川中部	1	2	1	0	0	4	3.4%	9	7.6%
	上川北部	2	0	0	0	0	2	1.7%		
	富良野	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	留萌	2	0	0	0	0	2	1.7%		
	宗谷	1	0	0	0	0	1	0.8%		
オホーツク	北網	3	0	0	0	0	3	2.5%	4	3.4%
	遠紋	1	0	0	0	0	1	0.8%		
十勝	十勝	9	2	0	0	0	11	9.3%	11	9.3%
釧路・根室	釧路	2	3	0	0	0	5	4.2%	5	4.2%
	根室	0	0	0	0	0	0	0.0%		
計		90	18	5	2	3	118	100.0%	118	100.0%

- 調査の結果、連携先があると回答した医療機関は、調査回答病院1,960か所のうち、118か所で、6%と非常に少ない。



- 連携数が10か所を超える医療機関について、最も多かったのが北海道大学病院の74か所で、その後に札幌圏内の主要な総合病院、旭川医科大学病院が続いている結果となった。また、札幌圏以外の医療機関については、旭川医科大学病院を除いて、連携数が10か所以下となっている。
- この他、標榜科別のアレルギー専門医の人数やアレルギー疾患名別の検査・治療の有無などに関する道のホームページ等への情報提供に同意があった医療機関は、調査回答病院1,960か所のうち1,149か所（約60%）であった。

## 5 医療機関の声

アレルギー疾患対応における問題点について、自由記載としたところ、主なものは以下のとおりであった（詳細は下表参照）。

- ・アレルギーの治療方針について、どこに相談すればいいのかわからない
- ・地域にアレルギー専門医がいなくて困っている
- ・診療報酬が高く、患者の費用負担が大きい
- ・金属アレルギーの対応がよくわからない

## 医療機関の声（アレルギー疾患対応における問題点）

1	歯科の場合は金属アレルギーの患者がいるが、皮膚科に金属のパッチテストをする所があまり無い様に思うので皮膚科にて「金属パッチテスト」を行っている診療所があれば教えて欲しい。
2	歯科の場合、金属アレルギーが主かと思われる。
3	アナフィラキシーショック患者の紹介先がないこと。（土曜日、夕～夜間でなくても）
4	医科からの情報が少なくアレルギー疾患の対応がわからない。今後、医科歯科の強固な直系が必要と思われる
5	金属アレルギーと皮膚科で治療された患者へのほてん治療の際、部分的に保険で対応しているようになったが、自費治療の部分がまだ多く、費用の面で治療できないことがある。
6	歯科医師の判断のみで治療(メタル外し)がすすめられない
7	金属アレルギーの場合、保険適用の材料でブリッジ等の治療ができないことがある。
8	食物アレルギー(特に乳幼児、小児)への対応が困ることが多いので乳幼児健診などを行う保健師にも紹介先医療機関を案内して欲しい。
9	金属アレルギーと診断がついても治療は自費(被せ物など)となってしまうことが多い。
10	金属アレルギー患者への対応
11	紹介を要する医療機関が少ない
12	テレビ番組などでタレントさんの採血でのアレルギー検査を番組内で行うと、症状のない視聴者が検査希望で受診が増えてしまう。症状のない人は自費診療になることや血液検査でアレルギー陽性でも症状がでなければ食べて良いことなど説明しなければならず診療上負担になってしまう。
13	金属アレルギーについて皮膚科でパッチテストを積極的に行ってくれない。
14	皮膚科で金属アレルギーのパッチテストを実施しているところはどこか把握したい。
15	書類関係の記載について、当センターを受診されている他機関利用のない患者様で、就学等でアレルギーに関して(主に食事)給食で除去すべきものの指示書類を記載することが多い。修学旅行などでも同様の書類を求められる。
16	金属アレルギー患者の増加
17	血液検査の数値が高いというだけで他院で食物アレルギーと診断され、不要な除去食を指示されたままの人がかなりいる。
18	患者の自己判断でアレルギー有りと訴える方が時々いる(金属アレルギー、麻酔薬アレルギー、プラスチックアレルギー)、他の医療機関にて検査を実施したところ、マイナスという結果が出て本人が認めないことがあり、疾病治療が行えないことがある。
19	誤った情報を信じ込んでいらっしゃる方が「こうしてほしい」と来院されると、正しい説明で対応しても雰囲気が悪くなる。

20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー専門医のいる病院が不明。</li> <li>・アレルギー検査のみで生活指導が行われていないところが多い。</li> <li>・時間がかかる割に治療費が他のものと同じ。</li> </ul>
21	成人のアトピーについて(重度の場合)、歯科で用いる金属も一因となっているのかどうかははっきりしないこと、また、全ての金属を除去すると保険制約上のコストが大きいこと(自由診療になるため)、結果が出なかった場合(症状の軽快がなかったとき)の責任問題など、治療についてハードルが高いことに困っている。
22	保険適用の抗原が少ない。
23	皮内テストをしていただける病院やクリニックが少ない。
24	アレルギー関連の受診者数に季節的な変動が大きいこと。特に喘息発作などの優先対応が必要な患者の受診者数が増えると(医師一人体制のため)、他の外来受診者を待たせる時間が長くなったり、定期訪問診療スケジュールに影響が及び、自宅で待つ家族や理学療法士に迷惑をかける状況も発生すること。
25	化学物質過敏症の紹介先及びマネジメントに困っている。
26	どの病院で経口負荷試験を行えるのか、経口免疫療法を行っているのかといった情報がなく、各病院のホームページを見てもわからず、口コミ以外に情報を得る手段に乏しい。
27	金属アレルギーを疑った場合、検査を実施してくれる医療機関の情報が足りないのではないかと。
28	食物アレルギーの専門医がいない。
29	治療方針についてどこに相談すればいいのかわからない。金属アレルギーとのからみで皮膚科とも密に連携をとっていきたい。
30	1人で診察しており、緊急時の対応が十分にできないため、口腔外科の病院へ紹介するケースが多い。患者さんにその旨を十分に説明するためにも情報が必要なため講演会を多く開いて欲しい。
31	他科での診断により依頼された治療をやるのみと考えているが、歯科で検査診断が可能かどうかわからない。
32	口腔内の金属アレルギーの診断に苦慮する場合は有る。
33	専門医療機関がわからない。どんな治療をしているのか知りたい。自分の専門外の分野のアレルギー患者の紹介先がわからない。
34	アレルギー専門外来がない。
35	皮膚科にて金属アレルギー病名がついても、すべてメタルフリーの保険診療ができない国の制度が問題。
36	アレルギー症状が例えば鼻や眼に限局していればそれぞれアレルギーを専門としている耳鼻科や眼科にお願いできるが、いろいろな症状が出ている場合、どこにまず相談すべきかが分からない。アレルギー専門はほぼ耳鼻科が主体であるため、全体的な相談ができないのが現状。
37	金属アレルギーを有する患者への保険適応範囲について。ブリッジ、義歯の適応
38	歯科で金属アレルギーに対する対処が一部でしか保険診療で認められていないため苦慮することがある。
39	腕のいい皮膚科が周囲にいない、専門医や病院の情報が欲しい。
40	脱感作療法のノウハウを知りたい
41	帯広市内のアレルギー専門総合病院がない。

42	帯広市内の耳鼻科でアレルギー検査を実施して、IgE抗体陽性なだけで食物アレルギーとして食事制限指導をされている先生がいて困っている。ご年配の先生方は新しい知識やガイドラインをご存知無いようで、患者さんやご家族への指導に問題がある。
43	金属アレルギーは検査自体もはっきりしない場合がほとんどである
44	最新の知識が普及せず、患者が無駄に検査を希望したり、一部の医療機関から無駄に検査が行われていたり、無駄に除去の指示を受けたりしている。
45	歯科用金属製作会社に問い合わせても、金銀パラジウム以外の数%の微量金属組成は各社独自の企業秘密との事で回答を得られなかった事がある 薬剤アレルギー既往との申告だけでは何の薬剤でアレルギーなのか判らずに適切な処方が行えない事がある。
46	テレビやマスコミの影響なのか、RAST陽性のみで即アレルギーであるという理解をしている患者さんが多く困っている。
47	近場でのアレルギー専門外来がないこと。
48	消化器内科領域のアレルギー疾患、好酸球性食道炎、好酸球性胃腸炎が増えていますが、診断基準があいまいです。かつ病理での好酸球浸潤が20以上ですが、十二指腸、上行結腸、回腸では容易に20以上となるため、もう少し明確な診断基準が欲しい。
49	歯科でアレルギーというのであれば、たとえば、口腔内で使用される、いわゆる金属アレルギーが古くから知られている。しかし、歯科で行う金属アレルギーへの対応ではなく、治療のため口腔内で施行される局所麻酔薬で発症するかもしれないアナフィラキシーへの対応が気になっている。頻度としては非常に低いと思われるが、死亡事例の分析を読んだことがある。
50	特に成人の原因不明アナフィラキシー等。
51	歯科の金属アレルギーのパッチテストを依頼するための簡単な文書フォームが欲しい。
52	アナフィラキシー後の通院や 投薬管理は、入院施設のある病院で対応してほしい。 エピペンの成分を考えたら、2桁くらい安価になってほしい。
53	食物アレルギーの治療ができる施設が道内にない(成人、小児共に)。
54	いい薬も増えてきているが、薬価が高すぎて処方が困難な場合が多い。
55	食物アレルギーの診療(特に初診)には30~60分と時間がかかるが、一般診療の初診料、再診料しか算定できないので、適正な診療報酬を検討してほしい。 道内で転居する患者でエピペン処方に対応している診療所を探すのが難しい。
56	継続的に治療が必要な状態であるが、定期的な服薬などの治療が患者さんの自己判断で中断されることがある。
57	舌下免疫療法について効果があると思うが希望者が少ない。
58	免疫療法していますが、万が一アナフィラキシーショックを起こしたときのバックアップが心配。
59	食物アレルギー患者の負荷試験を依頼する医療機関がわからない。
60	地域にアレルギー専門医がいない。
61	歯科金属アレルギーへの治療は原因金属の除去が治療の中心になりますがそれに対応する選択肢がないこと。
62	歯科で使用する金属の金属アレルギーの対応について苦慮することがある。 患者の費用負担が大きい。

63	薬物、特に局麻剤 鎮痛薬のアレルギーの疑いの患者さんに遭遇すると歯科治療がかなり困難になる。金属アレルギーなどは皮膚科にお世話になっているが、薬物アレルギーなどの精査の依頼先が良くわからない。アレルギー科の標ぼうがある施設には、すべて専門医がいるのか。
64	専門医でも、担当医が変わると治療方針が変更され、患者が混乱して、質問をこちらに向けられ困る。
65	アレルギー疾患対応病院の詳細の告知および実績を公的機関で公表してほしい。
66	十勝ではアレルギー専門医の数が少ないため、患者が当院に集中しているような気がする。小児の食物アレルギーで、当地で食物負荷が出来ないため、札幌へ紹介することもある。特に札幌以外では、アレルギー専門医の地域での適正配置が必要なのではないか。
67	歯科で扱う疾患としては、金属アレルギーが多いですが、保険診療で扱う事のできる金属に制限が有り効果の上がない事もある。
68	近隣の専門医療機関の情報
69	歯科用材料アレルギーの検査依頼をどのように出せばよいかわからない。疑いのあるものを直接もっていってもらえばよいか。
70	金属アレルギーの詳細を調べて貰える医療機関の一覧を作って欲しい。
71	金属アレルギーも増えてきている。
72	困っているというより要望ですが、小中学校の保健の時間などでアレルギーの怖さを子供たちに浸透していただく機会があれば、友達が具合が悪くなった際「これがアレルギーなのか」と周りに助けを求めることができたり、早期対応できる可能性が高くなる。先生方も無知なカタが多すぎるのが心配。
73	アレルギー疾患に対して歯科の関わり、例えば発作等起こしたらどのようにする必要があるかなど具体的にしたらいいのか対策等知りたい。
74	保育園・幼稚園などから依頼される各種書類(食事制限、生活制限など)が、統一されていない。
75	患者数が多く予約が3-4ヵ月待ちになり、患者も医師も負担が大きい。学校等に提出するアレルギー管理表を記入する時期が集中するため、その対応が大変。
76	金属アレルギーが疑われる場合の検査を請け負ってくれるところが少ないこと。
77	食物アレルギーの診療をしている医療機関がわからない。
78	アレルギー治療に経口免疫療法があるが、その治療を行っている機関が非常に少なく今後食物アレルギー疾患を合併している患者を紹介する際は選択可能な医療機関を増やして欲しい。
79	口腔内の局所に、浮腫、発疹、掻痒、違和感などが生じ来院された場合、問診と局所所見のみで炎症性疾患か、アレルギー性疾患かを鑑別しているのが現状で、適切な診査、鑑別方法がなく困っている。また、アレルギー疾患と診断できても、その抗原の特定に苦慮することが多い。このような場合、どこの医院に依頼したらいいのかもわからない。
80	アレルギー疾患を持つ患者の治療における注意点および標榜科での治療法が詳しく正確にわからない。□
81	歯科で使用する浸潤麻酔のアナフィラキシーショックの頻度の説明をどのようにしたら良いか。
82	金属アレルギーの検査を皮膚科で行ってほしい。 キシロカインの麻酔にアレルギーがあるか調べる方法があると良い。初めて麻酔する子供など。
83	抗菌薬投薬後に自宅等でアレルギーが出た場合、対応ができない。歯科診療所にいないため

84	昨今はこれだけアレルギー疾患が問題になっているにもかかわらず、アレルギー専門医がいないため、診療に不都合が生じている。特に食物アレルギーについては他の私立病院のアレルギー科にその都度相談している。
85	このままではアレルギー専門医を維持できない。専門医ルールが都市部で決まり地方は大変。
86	金属アレルギーや化学物質過敏症の患者さんが来院した際に、そういったものを含んだ材料を使用しないと歯冠修復できないので困ることが時々ある。
87	専門医が外来に出ていない時の診療体制・患者対応。
88	保育園、幼稚園からの意義の少ないアレルギー検査依頼があり、保険適応となる検査対象について行政から指導してほしい(アレルギーの既往のない児に対するスクリーニング目的での検査など)
89	少人数で外来診療を行っているので、発作時 救急時の対応に苦慮している。
90	アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患がアレルギー科でなければ専門ではないと思っている患者さんが多く、アトピー性皮膚炎の治療経験の少ないアレルギー科の医師が診察し、我々の常識から離れた外用剤を処方してしまっている。アレルギーは血液検査で分かると誤解している患者さんが多く、食物アレルギーは米国FDAでは血液検査を判断基準に食事制限をしなければならないと警告しているが、日本では認知されていないことも問題である。
91	金属アレルギー対策として医療保険の診療で大臼歯6番にCAD/CAM冠を導入できるようになったが、その際、医科の医療機関から診療情報提供書が必須であることは、患者さんに大きな負担となっている。
92	歯科用金属のパッチテストをしてくれる医療機関がわからない
93	金属アレルギーの患者さんに対し皮膚科に検査を依頼した際、返事を頂ける場合が多いが、時に返事を頂けないことがある。歯科で(例えば常勤の口腔外科専門医がいる施設など)検査できるようになれば診療がスムーズに進む。
94	他医で継続治療をしている方が発作時に受診し薬の変更追加等必要な時。
95	歯科治療用材料として用いられる化学物質(レジン、ボンディング剤等)が多く、下顎部質に対するアレルギーを持つ患者の治療では、処置の行いようがない。また保険請求についても、そのような患者に対する必要な治療および請求が整っていない。
96	アレルギー専門医ではない人でもアレルギー科を標榜している状況はよくない。
97	金属アレルギーの検査を行なっている医療機関がわからない。
98	歯科においては歯科用金属による金属アレルギーが1番問題になるが、最近アレルギーテストを行ってくれる医療機関が少ない、またはどこで検査を行っているかがわからない(紹介先の医療機関・皮膚科等)。
99	不測の事態に備え エピペンは常備していますが 定期的なアナフィラキシー処置に関する勉強会や、昨今、増えているアレルギー疾患についての講習会などもなく情報が少ない。
100	歯科医療機関では、現行の医療法等の関係でアレルギー疾患等の検査、診断及び処置はできない状況である為、紹介医療機関での検査や処置に依存しなければならない現状に困っている。
101	・北海道地方では、小児科アレルギー疾患の専門的知識・経験を有している医師が患者数に比して少なく、アレルギー患者に対する一次予防・積極的治療が普及していない。 ・成人の食物アレルギーに対する検査・治療を行っているところも少ない。



# (参考)アレルギー診療実態調査 アンケート用紙

## アレルギー疾患診療実態調査

## 調査要領

北海道では、アレルギー疾患患者及び関係医療機関の医療従事者に対する情報提供と、アレルギー疾患対策の基礎資料として活用することを目的に、内科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、等を標榜してアレルギー疾患診療を実施している医療機関を対象として、診療実態調査を行うことといたしました。

つきましては、お手数をおかけすることになり大変恐縮ではありますが、以下のアンケートにおける各標榜科情報をとりまとめ、貴医療機関のアレルギー疾患診療状況についてご回答いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

ご回答期限は、令和2年(2020年)1月31日(金)までとさせていただきます。

なお、今後、医療機関の種別、アレルギー疾患を診療している標榜科、常勤しているアレルギー専門医、アレルギー疾患に対する検査・治療の回答内容について、道のホームページ等により情報提供することを検討する予定です。

### 《回答方法》

次のいずれかの方法によりご回答願います。

- ① 北海道電子自治体共同システム（電子申請システム）へ直接入力（推奨）



URL : <https://www.harp.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=3QGluumC>

- ② 当課代表メールへの回答 別紙様式

E-mail : [hofuku.chihokansen@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:hofuku.chihokansen@pref.hokkaido.lg.jp)

- ③ 郵送 別紙様式

あて先：〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
北海道保健福祉部健康安全局地域保健課感染症・特定疾患グループ

※アンケート用紙（別紙様式）は当課ホームページからダウンロードできます。

URL : <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/allergie.htm>

### 【問い合わせ先】

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課  
感染症・特定疾患グループ

TEL : 011-231-4111 内線25-518

### 【目的】

平成27年12月に『アレルギー疾患対策基本法』が施行され、法に基づき平成29年3月には『アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針』、平成29年7月には『厚生労働省健康局長通知「都道府県におけるアレルギー疾患の医療提供体制の整備について」』が発出されております。

都道府県には、アレルギー疾患患者が居住する地域に関わらず適切な医療を等しく受けられるよう、アレルギー疾患医療の質の向上及び医療提供体制の整備等を協議する連絡協議会の設置や拠点病院の選定が求められていることから、北海道としても、地域の実情に応じたアレルギー疾患対策推進するため、今般、本調査を実施し、診療実態を把握します。

### 【留意事項】

#### ○主なアレルギー疾患について

本調査の項目にあるアレルギー疾患名は、厚生労働省による助成を受け一般社団法人日本アレルギー学会が開設している、「アレルギーポータル」を参考にしております。

URL : <https://allergyportal.jp/>

#### ○用語の解説

- ・ **エピペンについて**  
急激に起きるアレルギー反応の「アナフィラキシーショック」に対し、一時救命救急処置として行うアドレナリン自己注射のことをいいます。
- ・ **アレルゲン免疫療法について**  
アレルギー疾患の治療法のうち、原因に対して根本的な治療を行うものを「アレルゲン免疫療法」といい、他には、症状が出たときに種々の薬を使う「薬物療法」があります。

#### ○法律等

以下の法律等は当課ホームページからダウンロードできます。

- ・ **アレルギー疾患対策基本法**
- ・ **アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針**
- ・ **厚生労働省健康局長通知「都道府県におけるアレルギー疾患の医療提供体制の整備について」**

URL : <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/allergie.htm>

## アンケート用紙

【医療機関名】 \_\_\_\_\_

【郵便番号・住所】 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

【電話番号】 \_\_\_\_\_

Q 1. 貴医療機関の種別について該当するものを選択してください。

※医療法に基づく種別

- 1. 一般病院（2、3、4、5以外）  
 ○ 2. 療養病床のみを有する病院  
 ○ 3. 特定機能病院  
 ○ 4. 地域医療支援病院  
 ○ 5. 精神科病院（精神病床のみを有する病院）  
 ○ 6. 一般診療所  
 ○ 7. 歯科診療所（歯科のみを有する診療所）

Q 2. 標榜科ごとに、①アレルギー疾患を診療しているかをチェック（複数回答可）し、次に②常勤しているアレルギー専門医の数を選択、3人以上は（ ）内に数を記載してください。

なお、標榜科ごとに分けられない場合は、①のところを「その他」にチェックいただき、②に進んでください。

※1 標榜科は医療法に基づくもの

※2 アレルギー専門医は日本アレルギー学会が認定した医師など

標榜科名	①アレルギー疾患診療実施	②常勤のアレルギー専門医
1. 内科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
2. 外科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
3. 精神科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
4. アレルギー科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
5. リウマチ科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
6. 小児科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
7. 皮膚科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
8. 泌尿器科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
9. 産婦人科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
10. 眼科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
11. 耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
12. リハビリテーション科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )

13. 放射線科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
14. 病理診断科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
15. 臨床検査科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
16. 救急科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
17. 麻酔科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
18. 歯科	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )
19. その他	<input type="checkbox"/>	0人, 1人, 2人, 3人以上( )

Q 3. 次のアレルギー疾患のうち、検査や治療を行っているものをチェックしてください。（複数回答可）

疾患名	検査	治療
小児のぜん息	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
成人のぜん息	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アトピー性皮膚炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アレルギー性鼻炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
花粉症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
口腔アレルギー症候群	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アレルギー性結膜炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食物アレルギー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
重症薬疹	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
接触皮膚炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
じんましん	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ラテックスアレルギー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アナフィラキシー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
職業性アレルギー疾患	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q 4. 上記Q 3までの情報を、アレルギー疾患診療医療機関として道のホームページ等により情報提供する場合には、同意いただけますか？

○はい ○いいえ

Q 5. アレルギー疾患で道内の医療機関と連携しているところはありますか？

○はい ○いいえ

「はい」の場合は主な医療機関を3つまで以下に記載してください。

---



---



---

Q6. アレルギー疾患の診療状況について、各項目どちらかを選択してください。

疾患名	内服薬を処方していますか？	外用薬（吸入薬・鼻噴霧薬、点眼薬、軟膏等）を処方していますか？	発作時の対応を行っていますか？
小児のぜん息	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
成人のぜん息	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
アトピー性皮膚炎	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
アレルギー性鼻炎	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
花粉症	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
口腔アレルギー症候群	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
アレルギー性結膜炎	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
食物アレルギー	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
重症薬疹	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
接触皮膚炎	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
じんましん	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
ラテックスアレルギー	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
アナフィラキシー		<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
職業性アレルギー疾患	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

Q7. 過去1年間にエピペン処方していますか？

はい いいえ

「はい」の場合は、①処方した実患者数を選択、3人以上は（ ）内に数を記載し、把握している範囲で②実際にエピペンを使用した場所をチェック（複数回答可）の上、③それらを使用した実患者数を選択、3人以上は（ ）内に数を記載してください。

なお、同一患者に数本処方した場合でも1人、同一患者が同じ使用場所で複数回使用した場合でも1人と数えることに留意してください。

対象患者	①処方患者数	②使用場所	③使用患者数
未就学児	0人, 1人, 2人, 3人以上( ), わからない	<input type="checkbox"/> 未使用	
		<input type="checkbox"/> 家庭	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 保育所	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 幼稚園	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 外出中	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> その他	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
小学生	0人, 1人, 2人, 3人以上( ), わからない	<input type="checkbox"/> 未使用	
		<input type="checkbox"/> 家庭	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 小学校	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 外出中	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> その他	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> わからない	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
中学生・高校生 (13歳以上 17歳未満)	0人, 1人, 2人, 3人以上( ), わからない	<input type="checkbox"/> 未使用	
		<input type="checkbox"/> 家庭	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 中学校	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 高等学校	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 職場	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 外出中	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
18歳以上	0人, 1人, 2人, 3人以上( ), わからない	<input type="checkbox"/> 未使用	
		<input type="checkbox"/> 家庭	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 学校	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 職場	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> 外出中	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> その他	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない
		<input type="checkbox"/> わからない	1人, 2人, 3人以上, ( ), わからない

Q8. 道内のアレルギー疾患診療体制について、望まれることがありましたら以下に記載してください。

---



---



---



---



---

ご協力ありがとうございました。